

# みんなの環境

第19号 2009年2月6日

編集/発行 あつぎ環境市民の会

[http://www.geocities.jp/atsugi\\_kankyo/](http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/)



みんなの環境展 2009（あつぎ環境市民の会主催）が1月17、18両日、厚木合同庁舎で開催された。今回は神奈川県と厚木市の『県央発！環境フェスタ』と共催で会場も県央地域県政総合センターとなり、厚木市や県央の企業も参加、2日間で2,150名の来場者があった。

☆

食堂棟前の5つのテントとその前の通路を挟んだ日当たりのよいコンコースが、『みんなの環境展 2009』の会場。No.1テントは「自然を守る」市内各所のCO<sub>2</sub>調査報告。環境家計簿のコーナー。自然系環境団体の現況報告がポスター展示された。No.2テントは環境絵てがみ展。私たちの自然や生活環境への思いを絵手紙に描いてくださった。No.3、4テントは太陽光発電、ソーラーキッチン、ハーブで作るかおり袋工作など。通路前の銀色に輝く大きなパラボラで太陽熱を集めお湯が沸き、調理ができる様はみな目を見張っていた。No.5テントは「地産地消」地元の安いだけじゃない、安全安心の野菜の即売。東京農大、㈱中央カンセー、なかちょう大通り商店街振興組合の協力による食品リサイクル・循環型社会の展示など。

食堂棟と会議室では、17日午後には食品リサイクルや食育をめぐって地元農家とリサイクル企業との公開対談。18日午前には温暖化を救う太陽光発電についての東京農大・宮田先生のトーク。午後は簡易ソーラーキッチン「あさがお」工作教室など開催した。

最近の環境問題に関心をもつ市民も多く、企業や自治体の展示も省エネや廃棄物、CO<sub>2</sub>の排出削減などをアピールしており、私たちの環境の保全に取り組む姿勢も来場者には理解してもらえた。

# 第5回 みんなの環境展



環境フェスタと同時開催で盛り上がる



多数の方々から寄せられた環境絵てがみ



「あさがお」づくりに熱中する子どもたち



大型ソーラークッカーがずらりと並んだ



地産地消のモデル。地元野菜は安心・安全



東京農大・宮田先生のトークショーは人気

県央地区内の企業、教育機関、行政機関が参加する「環境フェスタ」との共催ということで、準備段階からいろいろと交渉、折衝と単独での開催にない経験をした。地球温暖化防止に向けての取組みという共通の目標だったが、歯車はなかなかかみ合わなかった。しかし、企業や行政機関の考え、環境に対する社会の流れを見聞できたのは収穫だった。この体験は今後のわれわれの活動の糧となるだろう。

# 知事と語ろう！神奈川ふれあいミーティングに参加

多くの方の頑張り 心強く感じる

狩野光子

平成 20 年 11 月 6 日、厚木市文化会館小ホールにおいて、知事と語ろう！ふれあいミーティングが開催されました。あつぎ環境市民の会は、当日の事例発表依頼をうけ発表内容を定例会で討議し「地産地消とソーラーキッチンングの実践」をテーマに発表することにしました。準備した 50 枚あまりの画像を使用して、日々みんなの活動を発表させて頂きました。



地産地消とソーラーキッチンングの実践を報告する

今年度のふれあいミーティングのテーマは、“神奈川から『地球復興』を！～地球温暖化に向けて、今、できること～”。地球温暖化のビデオ上映、知事からテーマの説明がありました。松沢知事はクールネッサンス（涼しく、復興）の取り組みの方向性を具体的に、市民でも分かりやすく説明をしてくださいました。

中でも印象に残ったのがEVプロジェクトで、温暖化の原因に大きな影響を与えている車社会のシステムを変えようとする姿勢でした。

また、誰でもすぐ出来ることとして“NO”レジ袋キャンペーンの実施や、白熱球利用、太陽光の利用の薦めなど盛りだくさんでした。

あまり時間が残されているとは思えない温暖化問題ですので、私たちとしても出来る事を大いに実践し薦めています。電気自動車の電気は何から発電されるのだろうか？太陽光パネルのリサイクル技術はどうなっているのだろうか？蛍光灯に入っている水銀は微量とはいえどうなるのだろうか？と不安が無いわけでもありません。

しかし現実問題として、今すぐに、江戸時代に戻れないジレンマを感じながらも、少しでも環境に優しい生活スタイルを身につけて行きたいと思っています。

知事をはじめ、多くの方が頑張っている様子がわかり、安堵感と心強く感じたひとときでした。最後に県央地域県政総合センター・企画県民部県民課の職員の方々に大変お世話になりました。当日、応援に駆けつけてくれた仲間達と共に感謝申し上げます。



## 街の自然

### 庭に来るヤマガラ

ヤマガラは、すぐ人慣れし好奇心旺盛です。この時期、野外に昆虫などのえさが少なく、おなかをすかしています。早朝は、好物のヒマワリの種を見せると、すぐ手の上に乗ってきます。（写真と文：長岡 恂）



この機関紙にみなさんの環境への思いや情報を載せましょう。原稿は随時受け付けています



諏訪哲夫 (すわ・てつお=厚木植物会会長、あつぎ環境市民の会会員) 1月29日 死去 77歳。

1931年厚木市生まれ、厚木高校、横浜国立大学生物学専攻卒。公立中、高校勤務。1960年ごろ厚木高校・生物の先生として近隣の高校生物部にも呼びかけ「北相自然保護の会」を作る。

1966年「神奈川県自然保護協会」設立発起人の一人で初代理事。

1979年ごろより「神奈川県植物誌」のための県央地区の植物調査を開始。1988版、2008版の刊行後、調査継続のため「厚木植物会」が誕生。調査だけでなく観察会や講演会など市民のための啓発、貴重な動植物の保全など幅広く活動。最近「あつぎ地

域SNS」による地域動植物情報の発信に力を注いだ。「野生動植物保全フォーラム」は運営継続が困難となったが氏の強い意志により継続開催されている。

2004年「あつぎ環境市民の会」発足時、その役割や会のコンセプトを熱く語り、当会の設立を強力にバックアップした。その後も進むべき方向を指導し、会の基礎づくりに貢献した。報告書、共編著に「座間市の植物」1983「神奈川県植物誌」1988,2008、など多数。著書に「あつぎの花めぐり」2006、「続 あつぎの花めぐり」2008がある。

ここに慎んでご冥福をお祈り申し上げます

(長岡恂)

## 生物季節を記録しよう 2月の自然

まだ寒い日は続くものの、冬至を過ぎてから一月余り、日はだいぶ長くなり太陽高度も増してきました。この頃を光の春と言います。日だまりでは春の草が背丈は伸びないものの青々と茂り本格的な春へスタンバイしています。虫たちの活動はこれからですが小鳥たちの活動は活発になり始めます。ヒバリやシジュウカラの囀りが良く聞こえるようになります。

2月2日、林5丁目の我が家ではヒバリの初鳴きを聞きました。上空を飛ぶカワウの腰に白い模様がはっきり見えました。繁殖OKと言うことでしょうか、この季節だけ見られる模様です。2月3日はシメが隣の空き地でのんびり時を過ごして行きました。餌台を設置するととってもたくさんの野鳥に居ながらにして出会うことが出来るでしょう。ホトケノザ、タネツケバナ、カントウタンポポの開花も始まっています。

あなたの見聞きしたものを教えてください。①見たり聞いたりしたもの。②場所(市内だったら地名〇丁目ぐらいまで)③お名前・連絡先(場合によっては確認のためお訊ねする事があるかも知れません。発表する時、個人名は匿名にします。)ここに掲載するデータは、紙面の都合で取捨選択させて頂くことはお許し下さい。

情報はFAX (046-222-2356) またはメール (kohji.aoto@nifty.com) で青砥航次へ。

## みんなの環境 19号 2009年2月6日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 狩野光子

電話/FAX 046-224-5010 e-mail: [mitsuko-karino@ayu.ne.jp](mailto:mitsuko-karino@ayu.ne.jp)

制作 長岡 恂 e-mail: [jun.nagaoka@nifty.com](mailto:jun.nagaoka@nifty.com)

事務局 〒243-0817 厚木市王子2-14-3 山中延明 方

電話/FAX 046-224-9693 e-mail: [ANA40480@nifty.com](mailto:ANA40480@nifty.com)

郵便振替口座 00200-7-132779 (年会費 2000円)

(C)あつぎ環境市民の会 2009